

英語科教育法 I (第15講)

教材及びICTの活用



目次

- ▶ 教材の分類
- ▶ 教材をどのような視点から選ぶか
- ▶ 自分の教育観、言語教育観
- ▶ デジタル教材の利点
- ▶ YouTube



小学校や中学校での教材

令和3年度版

NEW CROWN

1 2 3

English Series



教材を選ぶ基準（1）

- ▶ ①自分の言語観や教材観と適合するか。
- ▶ ②シラバスや教授法は妥当か。
- ▶ ③字習指導要領の内容はどのように具現化されているか。
- ▶ ④使用上の自由度が確保されているかどうか（最初から順番通りでなくてもよいか、必要に応じて順番の入れ替えが可能か）。
- ▶ ⑤補助教材や資料など充実しているか。付属の動画やDVDなどは使いやすいか。



教材を選ぶ基準（2）

- ▶ ⑥各学年の教科書間の連携、各科目の関連性はどうか。
- ▶ ⑦ 目標は明確か、また、それは学校の指導目標や制度（入試など）との整合性はあるか。
- ▶ ⑧言語材料と言語活動は適切で関連性はあるか。
- ▶ ⑨四技能間のバランスはよいか、一つの技能だけに偏っていないか。
- ▶ ⑩文化や価値観の違和感はないか。異文化に対する偏見を助長しないか。



学習者の立場からの選択（1）

- ▶ 学習者からみれば、教材は自分がそれを用いて学習する材料である。学習者の立場から教材を眺めることも必要である。
- ▶ つまり、教員は学習の援助者（facilitator）であることを自覚して、つねに学習者を念頭におきながら、どんな教材の、何を、どの程度、どのように指導すれば最も効果的か、その活用法を考えることが大切である。学習者にとって、学習しやすい教材かどうか教員は常に意識しなければならない。
- ▶ ①本文や例文の英語、課題や活動は適切で論理的か。
- ▶ ②難易度は適切か。
- ▶ ③動機付けや興味の持続ができるか。



学習者の立場からの選択（2）

- ▶ ④題材は生徒のニーズに合っているか。
- ▶ ⑤タスクは変化に富んでいるか。飽きないように工夫されているか。
- ▶ ⑥生徒にとっての本物らしさ (authenticity)があるか。
- ▶ ⑦自主学習しやすいか。
- ▶ ⑧記されている指示文や説明文は明確か。
- ▶ ⑨学習の支援情報は与えられているか。
- ▶ ⑩達成感が得られるか。スモールステップに分かれていて学習者が一步一步達成したという充実感が感じられればいい。



授業前、授業中、授業後

- ▶ 教材研究は、授業準備の一環であるが、授業前に行うだけでは十分ではない。教材の評価に関する問題意識は、授業中や授業後の教材研究にも直結する。評価基準について事前の予測どおりの結果であったかどうかを確認することである。それは、生徒の表情や反応を観察しながら、期待した指導効果が得られているかをチェックすることができる。
- ▶ また小テストを行うことで、生徒の知識の定着度を推し量ることができる。また、アンケートやインタビューなども有益である。
- ▶ 教員は一年サイクルで授業を行うのであるから、その年の授業で得たノウハウは次の年には是非とも活用したいものである。



英語の授業における技能別分類

- ▶ 英語の授業における教材は多様である。ここではどのように教材を分類できるか考えてみよう。使用の目的や形態、カリキュラムとの関係などにより、次のような分類が可能であろう。
- ▶ (1) 読解：リーディング教材として、教科書や副読本、英字新聞やネットからダウンロードした英文がある。
- ▶ (2) 聴解：リスニング教材として、教科書付属のCD、ラジオテレビの英語講座、オーディオブック、YouTube、洋画、音楽がある。
- ▶ (3) 英作文：ライティング教材として、教科書、問題集がある。
- ▶ (4) 会話：対話教材、スピーチ教材として、教科書付属のCD、ラジオテレビの英語講座、YouTube、洋画などがある。



英語の教材の用途別分類

- ▶ 主教材、副教材（補助教材、自主教材）がある。通例は教科書が主教材である。ワーク・シートやCD、DVDなど教科書に付属している付属教材やピクチャー・カード、フラッシュ・カードなどは副教材である。さらに、教員が自ら作成する自主教材や、元来は教育用に作成されたのではない絵や写真、模型や実物（realia）なども教材として使われれば、補助教材として分類される。
- ▶ 授業では、主教材を用いて、それを補う観点から副教材を活用することが望まれる。児童・生徒のレベルが教科書とかけ離れているときは、他の教材を主教材として用いることもありえる。



メディア別分類

- ▶ 印刷媒体：文字教材
- ▶ 音声媒体：オーディオ、テープ、CD教材
- ▶ 視聴覚媒体：映像、ビデオ、DVD教材
- ▶ デジタル媒体：コンピュータ。iPad, iPhone は画面で文字や音声や映像が現れ、さらに辞書としても使える。非常に便利であり、今後はこれらをどのように活用するかが語学教育の決め手になると思われる。



デジタル教材の使用

- ▶ **デジタル教科書の使用**： インタラクティブで多様なメディアを組み込んだデジタル教科書を使用することで、生徒がより臨場感を持って学習できる。動画、音声、クイズ、リンクなどを組み合わせ、多様な情報を提供できる。
- ▶ **オンラインリソースの導入**： インターネット上の様々なリソースを活用して、リアルな言語環境に触れる機会を提供する。例えば、YouTubeの動画、オンラインニュース、言語学習アプリなどが役立つ。
- ▶ **e-learning 教材**： いつどこでもアクセスできる。
- ▶ **オンライン語学ゲーム**： 興味を引くために、言語学習をゲーム形式に取り入れることができる。クイズ、単語ゲーム、文法ゲームなどを通じて、生徒が楽しみながら学ぶ環境を提供できる。



ビデオと音声の活用

- ▶ **ビデオと音声の活用**：英語の発音やリスニングスキルを向上させるために、様々なアクセントやスピーキングスキルを持った人物のビデオや音声を使用する。また、映画やドラマを活用して生きた言語を学ぶことができる。
- ▶ **ブログやオンラインフォーラム**：生徒に英語での表現力を向上させるために、ブログの執筆やオンラインフォーラムでのディスカッションを組み込ませる。これにより、実際のコミュニケーションスキルが向上する。
- ▶ **言語学習アプリケーションの活用**：Duolingo、Memrise、Quizletなどの言語学習アプリを取り入れて、生徒が自宅や移動中にも効果的に学習できるようにする。



YouTubeを教材とするのは。



**YouTubeで
英語力アップ!**



課題

- ▶ どのような教材が望ましいのか。
- ▶ 小学校の英語教材としてどのような補助教材が望ましいのか。
- ▶ メディア別に教材の種類を挙げよ。

